

平成24年度東広島市教育委員会主催・広島大学マスタース共催市民講座 「初歩から学ぶラテン語 - シルクロードを一つ飛び - 」実施報告

広島大学マスタース会員 水田英実

日時・講義内容：

第1回 1月9日(水) 13:30-15:00 シルクロードの東と西、ラテン語の歴史

第2回 1月23日(水) 13:30-15:00 名詞の変化；「アヴェ・マリア」の歌詞

第3回 2月6日(水) 13:30-15:00 動詞の変化；ヴルガタ訳『創世記』冒頭

第4回 2月20日(水) 13:30-15:00 不変化詞；ローマ人たちの日常会話

会場：市民文化センター研修室（サンスクエア2階）

受講者：22名

平成24年度最後の市民講座としてラテン語講座を開催することができました。当初、古典語に関心をもつひとが、講座を開催することができるほど多く参加してくれるだろうかと気掛かりでしたけれども、蓋を開けて見ると、20人を越える受講者が集まり、毎回熱心に聴講していただいたので、こちらが戸惑うほどでした。

古代ローマ時代に良質の絹が東西交易路（シルクロード）を運ばれていたことから、東アジアに住むひとたちの呼称（セレス）に因んで、ラテン語で絹はセリクムと呼ばれたというような話を交えながら、まずラテン語の歴史を概観しました（第1回）。

次いで、変化表を提示して、ラテン語がいかに関尾変化がはなはだしい言語か、確認して貰いました（第2回、第3回）。併せて、グレゴリオ聖歌の中から、「アヴェ・マリア」を選んで、ラテン語の歌詞について文法的な説明をし（第2回）、ヴルガタ訳聖書から『創世記』第1章第1節 - 第3節を抜き出して訳し（第3回）、ラテン語の文章に触れてもらいました。最後に、不変化詞を取り上げました（第4回）。

古典ラテン語は中世以降も書き言葉として存続します。しかし話し言葉（いわゆる俗ラテン語）としてはロマンス諸語に変わっていき、現在ではもはやラテン語が生活言語として使用されることはありません。むしろ古代ローマ人にとっては生活言語でした。そこで最終回に、古代のローマ人たちが日常的に交わっていたであろう挨拶文を紹介しました。

アカデミックな雰囲気味わうことができたことと喜んでくださった方もいました。しかしグレゴリオ聖歌の歌詞の意味を理解できるようになるのが目標だと言っておられた方の役に立てたかどうか。時間数が限られていたこともありましたが、それにしても内容的に不足していたのではないかと反省しています。

